

## 防衛大学校本科第45期及び理工学研究科第36期並びに総合

## 安全保障研究科第1期学生の入校式における防衛大学校長式辞

(平成9年4月4日)

本日、防衛大学校本科第45期学生427名、理工学研究科第36期学生65名、総合安全保障研究科第1期学生22名の諸君を迎え、入校式を挙げるに当たり、村田防衛事務次官<sup>注(1)</sup>をはじめ多数の来賓の御臨席をいただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。また、全国各地から御臨席をいただきました御両親、御家族の皆様方に対しましても、お礼申し上げるとともに、御子女の栄えある入校を心よりお祝い申し上げる次第であります。



第6代学校長 松本 三郎

本科入校の新入生諸君、諸君は多数の受験生の中からもめでたく難関を突破し、本日の入校式に参列されました。心からお祝い申し上げるとともに、諸君が自らの意思で、祖国日本の防衛に身を挺するの気概を秘め、希望に胸をふくらませつつ、この小原台キャンパスの一員となられたことに衷心より敬意を表し、在校の教職員、学生諸君とともに、大きな喜びをもって歓迎するものであります。

また、タイ王国からの6名の留学生諸君に対しましても、祖国を離れ本校に学ぶその勇気と意欲を讃え、心から歓迎の意を表します。

さて、防衛大学校の教育は、いうまでもなく「幹部自衛官となるべき者を教育訓練する」ことにあります。すなわち、防衛大学校は、将来、陸・海・空各自衛隊において活躍すべき幹部自衛官を育成するために存在するのであります。それ故に、本校の教育は、他の一般大学と共

---

注(1) 村田直昭

通するものを多く持ちつつも、併せて他の大学には見られない様々の特色を有します。諸君は、この防衛大学校に学ぶ意味を日常生活の中で絶えず問いかけ、決意を新たにしつつ、これからの4年間、大いに研鑽努力されることを期待しています。

本日の入校に当たり、私は徳育・知育・体育に係わる次の三点について諸君に要望致します。

まず第一に、本校建学の理念ともいえるべき「真の紳士淑女にして、真の武人」についてであります。このことは、将来幹部自衛官となるべき学生として、優れた幹部自衛官を目指して努力することはもちろんであります。同時にまた、一人間として、良き市民、立派な社会人となるべく修練すべきことを強調するものであります。

もとより、将来の幹部自衛官を育成する本校においては、全学生の規律正しい団体行動が学生生活の根幹をなしております。このため諸君は、入校と同時に全員校内の学生舎で4年間の団体生活を送ることになります。この体験は、諸君が、将来多くの部下を指揮統率する幹部自衛官としてふさわしい資質を養成する上で、極めて重要なことでもあります。新入生諸君にとっては、規律ある団体生活を営むということについては、これまでの生活環境と異なるところから、当初は戸惑う者があるかも知れません。しかし、昭和28年の本校創立以来44年間に1万9千人を越える諸君の先輩達は、それを克服して大きく成長してきたのであります。

諸君に期待するのは、素直な気持ちでこの団体生活に飛び込み、早くその雰囲気馴染むことです。人間教育は模倣に始まると言います。先ずは、指導教官の指示に従い、上級生の生活姿勢を見習い、自らの実践を通じて正しい躰を身につけ、幹部候補生たるにふさわしい容姿、態度の持主となっていきたいと思えます。また、それと同時に心掛けねばならないことは、これが形式だけに終わってはならないということです。「真の紳士淑女にして、真の武人」への道は、一朝一夕にしてなりたつものではありません。不断に自らを深め練磨し、一步一步信頼される魅力ある人物に成長してゆく努力を怠ってはなりません。この4年間の小原台の生活を通じ、裾野の広い、奥行き深い人間形成に努められるよう、諸君の自主積極的な向上心を強く期待しております。

第二に、諸君は学生らしくしっかりと勉学に励まねばなりません。

先進諸国における今日の士官候補生教育は、一般大学生と同等以上の知的水準の達成をその目標としておりますが、我が防衛大学校におきま

しても、文部省の大学設置基準に準拠した理工学系、人文社会科学系の教育を中軸に、それに更に本校独特の防衛学の教育を加えた充実した学業内容を有しております。防衛大学校の教育方針に「広い視野を開き科学的思考力を養う」とありますが、将来予測される激しい内外情勢の変化に的確に対応できる有能な幹部自衛官となるためには、幅広い学識の上に立つ豊かな創造力と国際感覚の持主でなければ通用しない時代となっていることを銘記すべきであります。諸君は、優れた教授陣を擁するこの防衛大学校において、これからの4年間、幹部自衛官としての資質・技能を練磨するとともに、単に知識を吸収するだけでなく、常に「自ら問題を発見し、その解決策を考える。そして考えた結果を実行し、その責任は自らが負う」という積極的姿勢の下で生きた学問の研鑽に努め、将来の大成を期していただくことを切望するものであります。

第三に、諸君は体力、気力の錬成に励まねばなりません。幹部自衛官たるには、いかに知力が優れていても、強健な体力と旺盛な気力がなければ、困難な状況下において、冷静な判断力、沈着な行動力、優れた統率力を発揮することができません。一般大学と違い、本校においては訓練や体育が特に重視される理由であります。

防衛大学校では、更に教育方針の一つとして学生全員の参加する校友会活動を奨励しており、校友会の下に数多くの運動部や文化部があります。諸君は、これら各部の活動に積極的に参加し、心身を鍛え、豊かな情操を養い、立派な自衛官としての素地を培っていただきたいと思えます。これらの活動を通じ、喜びや悲しみを共にしつつ小原台で流した青春の汗は、必ずや先輩後輩、そして同期生の絆を固め、豊かな人間関係を育くみ、また諸君にとって忘れ難い生涯の思い出となるでめりましよう。

「光陰矢の如し」と言われる如く、大学時代は長いようで案外早く過ぎ去ってしまうものです。長い人生の中でもとりわけ貴重な青春時代の4年間をどう使うかで、その人の将来は大きく左右されます。諸君が充実した悔いのない学生生活を送られるよう強く望む次第です。

次に、理工学研究科及び総合安全保障研究科に入校された諸君 - 理工学研究科にはタイ王国からの留学生2名が、また総合安全保障研究科には部外民間からの初の入校者2名が含まれておりますが- 諸君に申し上げます。諸君がこの度、特に選抜されて、本校の研究科において、高度の先端科学技術乃至は高度の安全保障の理論と政策の研究に専念せられる機会を与えられたことを、心からお喜び申し上げます。

御承知のように、現在世界の各国は、競って科学技術の向上を図り、防衛力の近代化に努めておりますが、科学技術の立ち遅れが国家の安全保障に由々しき影響を及ぼすことに思いを致すとき、わが国将来の防衛関係の科学技術の向上は必須の条件であり、理工学研究科に学ぶ諸君の若い頭脳に期待するととろ誠に大きいのであります。また一方では、21世紀を目前にした今日、わが国はその安全保障のあり方を多角的、かつ学際的、総合的に分析、研究し、政策を立案する必要を強く求められております。本年わが国初の総合安全保障研究科が本校に創設されたのは、正にそうした国家的要請に応えるためであり、同研究科の第1期生として入校された諸君は、「自我作古（我れより古を作る）」の気概をもって、新研究科の成果を世に示すべく励まねばなりません。

今日まで諸君の多くは、第一線における自衛隊の各種部隊、艦船、各機関等にあつて、また一部の諸君は民間の職場にあつて、それぞれ多忙な日常の任務に就かれ、学問の道に遠ざかることを余儀なくされていたことと思います。しかし幸いにして諸君は、本研究科において今一度学究生活に入る好機を得られたわけです。過去において履修された基礎を踏まえつつ、未知の領域に挑戦し、創造的姿勢でより高度の科学的研鑽に励まれ、将来大成される基礎を固められるよう期待しております。

時あたかも桜花爛漫たる春の季節を迎え、遠く西に富士を望み、青き海原を眼下に収めるここ小原台上において、祖国防衛という崇高にして遠く遥かな使命に向けて、正に第一歩を踏み出さんとする諸君のこれからの健闘を心より祈り、私の式辞と致します。

諸君、入校おめでとう。